



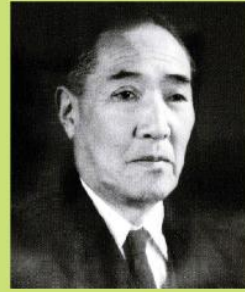
天満宮の鳥居の前にも、かつて水路があったの
だけけれど、その橋石は、今、ベンチとして
利用されているわ。



天満宮のかつての橋石



ちょっと太鼓橋っぽいね。



森 平三郎
(1891~1980)

森 平三郎 (もりへいざぶろう)

森平三郎は、明治24年(1891)、森宗作の三男として桐生町に生まれました。
そして、明治34年(1901)3月、義務制の桐生北尋常小学校(当時四年制)を卒業、
続いて桐生町立高等小学校(四年制)を二年で修了しました。その後、東京高等
師範学校(現筑波大学)附属中学校に入学。卒業後、東京高等工業学校紡織科、
旧制第一高等学校(現東京大学教養学部)、東京帝国大学(現東京大学)工学部を経
て、東京モスリン紡織株式会社に入社し、三年間勤めました。

大正15年(1926)、桐生高等工業学校の紡織科教授に就任。昭和18年
(1943)、山形県の米沢高等工業学校の校長に、昭和28年(1953)、山形大学長
に就任しました。

昭和43年(1968)に刊行された平三郎の随筆集「雑草苑随筆」の中から、マ
ッカーサー最高司令官の座右の銘といわれる詩を紹介しつゝ、

「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

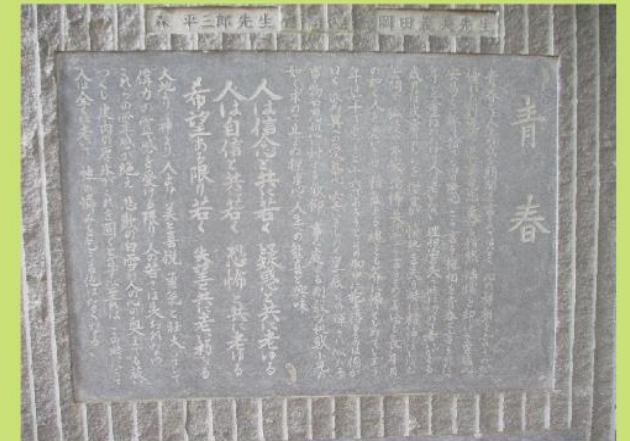
(中略)

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

この詩は、群馬大学工学部創立七十五周年記念碑にも刻まれてあります。



「群馬大学工学部創立七十五周年記念日」
群馬大学工学部同窓記念会館の近くにあります。